

想
像
力

宗
むなかた
像
力

創
造
力

第2次宗像市総合計画
基本構想・前期基本計画
2015～2024

宗像市

宗像市のあたらしいビジョンを
みんなで作ろう!



そう ぞう りよく

宗像力 プロジェクト

宗像市では、平成27年度からのまちづくりの指針を示す第2次宗像市総合計画の策定と今後の進行管理のことを「宗像力プロジェクト」と題し、取り組んできました。

第2次宗像市総合計画の策定に取り組んだ平成24年度から26年度では、「これからの宗像市をどうするのか?」を大きなテーマとして、市内外問わず多くの方々に対してアンケートやワークショップを実施し、宗像市のこれからの「想像」し、「創造」していただきました。

このプロジェクトでいただいた様々な意見や提案は、検討を重ねながら、第2次宗像市総合計画に反映させています。

目次

Contents

市長あいさつ、市民憲章、市の木、市の花、市の魚、市の鳥 1

基本構想

目指す将来の姿 8

第1章

1 節 将来像

2 節 将来人口

基本方針 12

第2章

1 節 将来像の実現を目指して

2 節 安全で安心なまちを基盤として展開する「まちの成長」と「まちの成熟」

第3章

まちづくりの柱 16

第4章

戦略的取組 17

1 節 協働の推進

2 節 都市ブランドの推進

基本計画

施策の展開 22

第1章

1 節 元気を育むまちづくり 26

2 節 賑わいのあるまちづくり 50

3 節 調和のとれたまちづくり 68

4 節 みんなで取り組むまちづくり 86

第2章

今後の推進体制 102

地区が目指すまちづくり 105

資料編 131

市民のみなさんへの メッセージ

Message from the mayor

いっしょに次の宗像へ

~The next step of our Munakata~

宗像市長

谷井 博美



宗像市民のみなさん、こんにちは。日々いかがお過ごしでしょうか。

旧宗像市、玄海町、大島村の合併から、10年が過ぎました。この間は、第1次の総合計画をもとに、新しい宗像市発展のため、さまざまな取組みをみなさんとの協働で、着実に進めてまいりました。

今回策定しました第2次の総合計画は、平成27年度から10年間のまちづくりの方針を定めたものです。この10年間は、将来の宗像市を思い描くと、大きな転換期になると考えています。さらに、将来の発展を見据え、基盤づくりに努めていきます。

みなさん、この重要な時期を乗り越えていくため、豊かな自然や歴史、文化など多くの資源を活かして、活気と魅力にあふれる宗像市と一緒に想像し、創造していきましょう。

最後に、ワークショップやアンケートを通じて貴重なご意見、ご提案をいただきました市民のみなさん、長期にわたりご審議いただきました総合計画審議会委員のみなさんに心からお礼申し上げます。

市民憲章

Citizens' charter

自然、歴史、文化、そして人々に恵まれた宗像のすべてが、
うるわしく豊かに発展することを願って、
ここに市民憲章を定めます。



- 一、ふるさとを愛し、すぐれた生活と文化を築きます。
- 一、美しい海とあたたかい緑の自然を守ります。
- 一、健康な心とからだをつくり、生き生きと暮らします。
- 一、なかよくふれあい、はげまし助け合います。
- 一、いのちを育て、正しいことを大切にします。



市民憲章は、平成18年4月1日に定められました。市民がお互いに守るべきルールや心のよりどころとなる、世代と時代を超えた市の共通認識として受け継がれる内容となっています。

この市民憲章全体としては、「誰かに任せた宗像ではなく、市民一人ひとりが自分で考え、自分で担っていく宗像になるように」という願いが込められています。



市の木 クスノキ



市内には、県指定天然記念物に指定されているクスノキが数多くあり、市を代表する施設「宗像ユリックス」の名前の由来にもなっています。

市の木 クロマツ



全国白砂青松百選や福岡県森林浴百選にも選ばれるさつき松原の美しいクロマツ林は、本市の代表的な景勝地で、豊かな自然の象徴です。ボランティアによる松苗植樹や松枝拾いなどにより、美しい景観を保全しています。

市の花 カノコユリ



以前は、市内で栽培され、コサージュ制作などで海外へ輸出されていました。クスノキ同様、「宗像ユリックス」の名前の由来にもなっています。

市の魚 マアジ



豊かな自然を象徴する玄界灘で水揚げされる魚です。多くの人に「釣りあじ玄ちゃん」として親しまれている、まさに本市を代表する魚です。

市の鳥 オオミズナギドリ



神湊の沖合約60キロに浮かぶ「沖ノ島」に住む貴重な鳥です。大島では「オガチ」と呼ばれ、海面をアーチ状に翼を広げて舞う姿は雄大華麗です。繁殖地が天然記念物に指定される地域もあり、学術的にも高く評価されています。

第2次宗像市総合計画体系図

将来像

基本方針

まちづくりの柱

戦略的取組

施策

ときを紡ぎ 躍動するまち
つむぎ 躍動するまち

考え方
 人・まち・自然が共生するまち
 人がつながり躍動するまち
 歴史文化を継ぎ育むまち



次世代に“引き継ぐ”という意識

- 元気を育むまちづくり**
子育て・教育・健康福祉など
- 賑わいのあるまちづくり**
産業振興・歴史文化・スポーツなど
- 調和のとれたまちづくり**
安全安心・環境・都市基盤など
- みんなで取り組むまちづくり**
コミュニティ・市民活動・行財政基盤など

協働の推進・都市ブランドの推進

- 子育て・教育・健康福祉**
 子どもの健やかな成長 子育て環境の充実 教育活動の充実
 教育環境の充実 グローバル人材の育成と国際交流の推進
 健康づくりの推進 安心できる医療体制の充実と社会保険制度の健全運営
 高齢者の健康づくり、生きがいづくり、場づくり 自立した生活の支援
 互いに尊重し、協力し合う社会の充実
- 産業振興・歴史文化・スポーツ**
 観光による地域の活性化 地域産業の活性化
 資源を活かした島の活性化 歴史文化の保存と活用
 生涯を通じた学習の振興 スポーツの多面活用
- 安全安心・環境・都市基盤**
 防災対策の強化
 防犯・交通安全・消費生活対策の充実による安全・安心して生活できる環境整備
 快適な生活環境の保全 自然環境の保全と再生
 調和のとれた土地利用と魅力ある景観の形成
 住宅施策の推進 都市基盤の整備 公共交通の利便性の向上
- コミュニティ・市民活動・行財政基盤**
 地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進 市民活動の推進
 情報発信の充実 連携によるまちの経営
 情報化の推進・情報の適正管理 計画的かつ効率的な行政経営
 公共施設等公共資産の管理、最適化の実践



まちづくりの基盤 「安全と安心」



基本構想

第1章	目指す将来の姿	8
	1節 将来像	
	2節 将来人口	
第2章	基本方針	12
	1節 将来像の実現を目指して	
	2節 安全で安心なまちを基盤として展開する「まちの成長」と「まちの成熟」	
第3章	まちづくりの柱	16
第4章	戦略的取組	17
	1節 協働の推進	
	2節 都市ブランドの推進	

第1章 | 目指す将来の姿

1 節

将来像

総合計画で掲げる将来像とは、市民憲章の理念を踏まえ、平成27年度から平成36年度までの10年間にわたる本市の目指すべき姿を表現したものです。

将来像

ときと紡ぎ
躍動するまち

将来像の考え方

人・まち・自然が共生するまち

“人^{*}とまちとの共生”とは、人がまちを育み、そしてまちの中で人がいきいきと暮らし、元気に活躍していることを言います。

“人と自然との共生”とは、人が自然環境を守り、その自然から心とむむる景観や「山の幸」、「海の幸」といった恵みを与えられていることを言います。

“まちと自然との共生”とは、海、川、山、田などの豊かな自然と、住宅地としての都市の機能が調和していることを言います。

宗像市は、まちの魅力をさらに高め、豊かな自然を実感でき、人とまちと自然とが互いに共生し、調和が保たれているまちを目指します。

人がつながり躍動するまち

人がつながることは、市内・市外にかかわらず、人と人が対話することで共感し、協働することで新たな想像や創造を生み出し、まちを成長、成熟させていきます。

本市は、アジアを見据えた都市づくりを行っている福岡市、北九州市両政令市の中央に位置し、JR鹿児島本線や国道3号という九州の大動脈を通じて多くのヒト、モノ、カネ、情報が行き交う立地に恵まれた地域条件を活かし、市外の人や他の自治体との交流や広域連携を進めることで、まちを躍動させます。

宗像市は、市内の人（市内の多様な担い手）と共に、市外の人とも連携を進め、存在感があり、躍動するまちを目指します。

歴史文化を継ぎ育むまち

本市には、二千年にわたる歴史があり、沖ノ島や宗像大社などに代表される歴史とともに、守り引き継がれてきた歴史文化があります。それらの歴史文化は、世代を超えた共有の財産でもあります。何世代もの先人が引き継いできた歴史文化を、次世代に引き継いでいきます。

さらに、歴史文化を次世代に引き継ぐだけでなく、新たな文化を生み出し、次世代に残していきます。宗像市は、貴重な歴史文化を誇りとし、次世代へ引き継ぐとともに、新たな文化を生み出すまちを目指します。

みんなの思い【ワークショップでの意見や提案】

想像力 宗像力 創造力

● 釣川さくらプロジェクト

少ない予算で中途半端な事業をいくつか行うよりも、市内全土に「花」をたくさん植え、宗像といたら花の街と言われるくらいにしたい。

● 自然があるところはある、都市としても栄えてこの二つのバランスが良い。

● なんだかいつもほっとする～つながる・あふれる共育のまち～

まちの自然を残しながら、いろいろな人と交流し、人とまちが共に育ってほしい。

● いろいろな地域で活動している人同士がつながる。

別冊「みんなの意見集」から抜粋

2 節 将来人口

本市は、昭和30～40年代の大型団地開発を背景として順調に人口が増加し、住宅都市として発展してきました。

しかし、平成24年に行ったコーホート要因法※を用いた将来人口の推計では、平成24年をピークに人口が減少していく結果となりました。将来人口の推計時（平成24年）と比較すると、第2次宗像市総合計画の計画期間が終了する平成36年度末には約3,000人の人口減少という推計結果となり、本市においても人口減少に転じると見込

まれます。

また、高齢化率は上昇の一途をたどり、平成24年で23.2%であった高齢化率は、平成37年には30%を超えるという推計結果となっています。

平成22年の国勢調査による人口と平成37年の推計人口を比較した場合、0～4歳及び20～34歳の減少幅は大きく、逆に70～79歳の増加幅は大きくなっており、少子高齢化及び生産年齢人口の減少が大きく影響していると言えます（表、図1～3）。

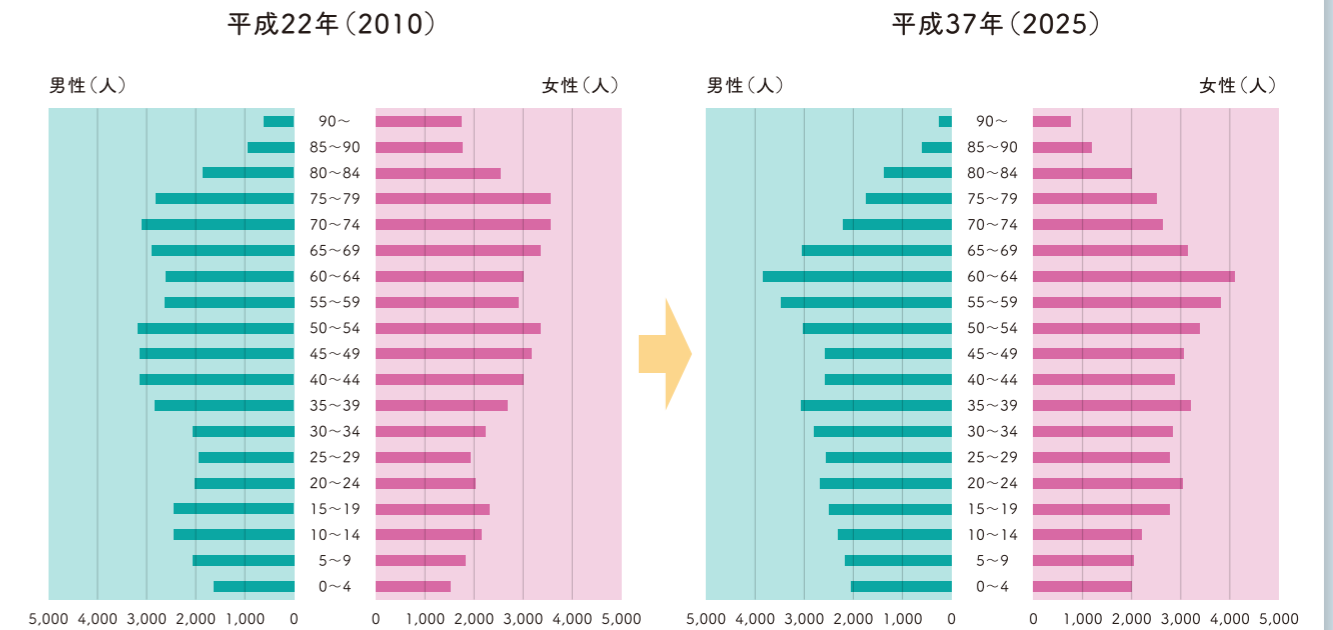


図3 人口ピラミッド(推計値)

資料:宗像市経営企画課 将来推計人口2012年3月

将来推計人口どおりに高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少が続いた場合には、空き家や空き地が増加することによる住環境の悪化、地域の住民活動の停滞、集落維持の困難などの問題が予想されます。また、高齢者人口の増加による医療費や介護保険の給付の増加に、生産年齢人口

の減少による税収減少が加わり、行政サービスを維持することが困難になることや、地域経済への影響も懸念されます。

これらの問題や課題の抑止に努め、住みよいまちづくりを目指すため、この10年間は、現在の人口96,000人の維持を目指していきます。

人口 3月31日	総人口	年少者人口 (0歳～14歳)	生産年齢人口 (15歳～64歳)	高齢者人口(65歳以上)	
				うち後期高齢者人口 (75歳以上)	
平成24年 【総人口比】	95,996	13,120 【13.7%】	60,569 【63.1%】	22,307 【23.2%】	11,025 【11.5%】
平成37年 【総人口比】 (対24年比)	92,987 (▲3,009)	11,643 【12.5%】 (▲1,477)	52,609 【56.6%】 (▲7,960)	28,735 【30.9%】 (6,428)	15,815 【17.0%】 (4,790)

(単位:人)

表 人口の推移

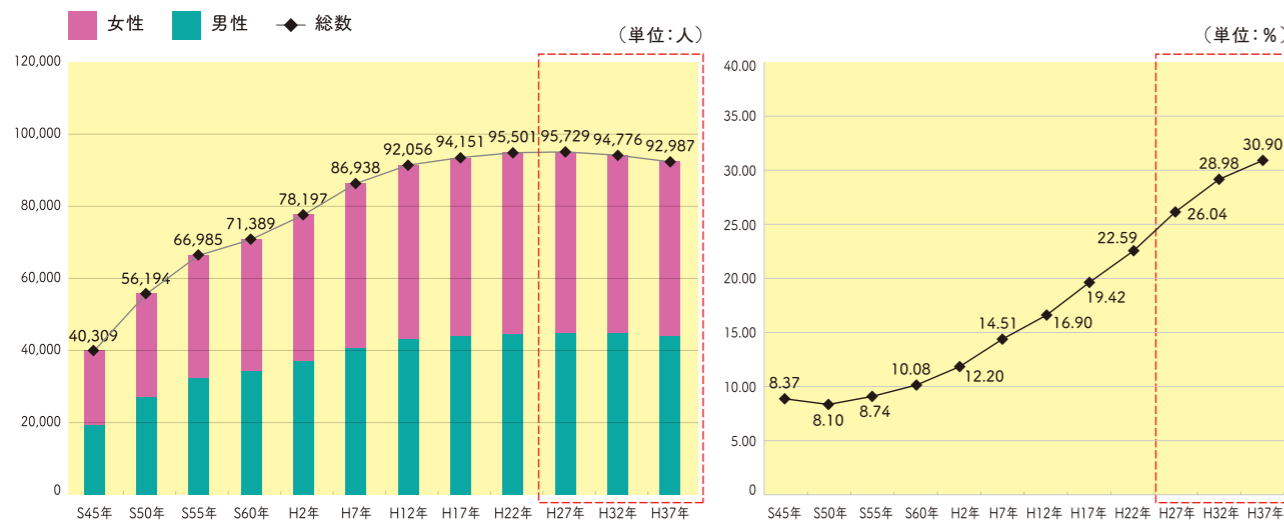


図1 男女構成別の人口の推移

図2 高齢化率の推移

みんなの思い [ワークショップでの意見や提案]



- 宗像人口急増!!
- 宗像の出生率2.5人を目指す!
- もっと若者の人口を増やす。
- 宗像の空き家が残りおあか!住んで都!
- 高齢化の現状から目を背けてはならない。
- 子どもをもっと産むべき!
- 人口を増やすのではなく、減らさないことが大切である。

別冊「みんなの意見集」から抜粋

第2章 | 基本方針

1 節

将来像の実現を目指して

少子高齢化の進展や市民ニーズの多様化及び高度化など、社会情勢の急激な変化のなかで、本市のまちづくりは大きな転換期を迎えています。以前のような飛躍的な人口増加が期待できないなか、第2次宗像市総合計画の計画期間は、これまでのまちづくりを踏まえ、将来に向けたまちづくりの礎を築く10年です。

本市が掲げる将来像「ときを紡ぎ 躍動するまち」を実現していくためには、行政活動に加え、「市民や企業*などによる活動の拡大」、「相互連携や協働の拡充」が今以上に重要となってきます。そのため、市民活動、行政活動、企業活動の量的増加や質的向上、付加価値の創造に向けた取組みを推進していきます。

2 節

安全で安心なまちを 基盤として展開する 「まちの成長」と「まちの成熟」

市民が安心して日々の生活を送るためには、安全で安心なまちの環境を整備することが何よりも優先されるべきであり、このことは、まちづくりの原点ともいえます。「安全で安心なまち」とは、そこに暮らしている市民だけでなく、本市を訪れる人もそう思うことができるまちであり、「安全で安心なまち」の基盤があって初めてまちづくりを進めることができます。

そのため、「安全で安心なまち」をまちづくりの基盤とし、防災、防犯、交通安全に対する取組みを引き続き進めながら、量的増加を伴う取組みを「まちの成長」、質的向上及び付加価値の創造を伴う取組みを「まちの成熟」と位置づけ、今後10年間のまちづくりを進めていきます。



図4 「まちづくりの基盤」と「まちの成長、まちの成熟」との関係

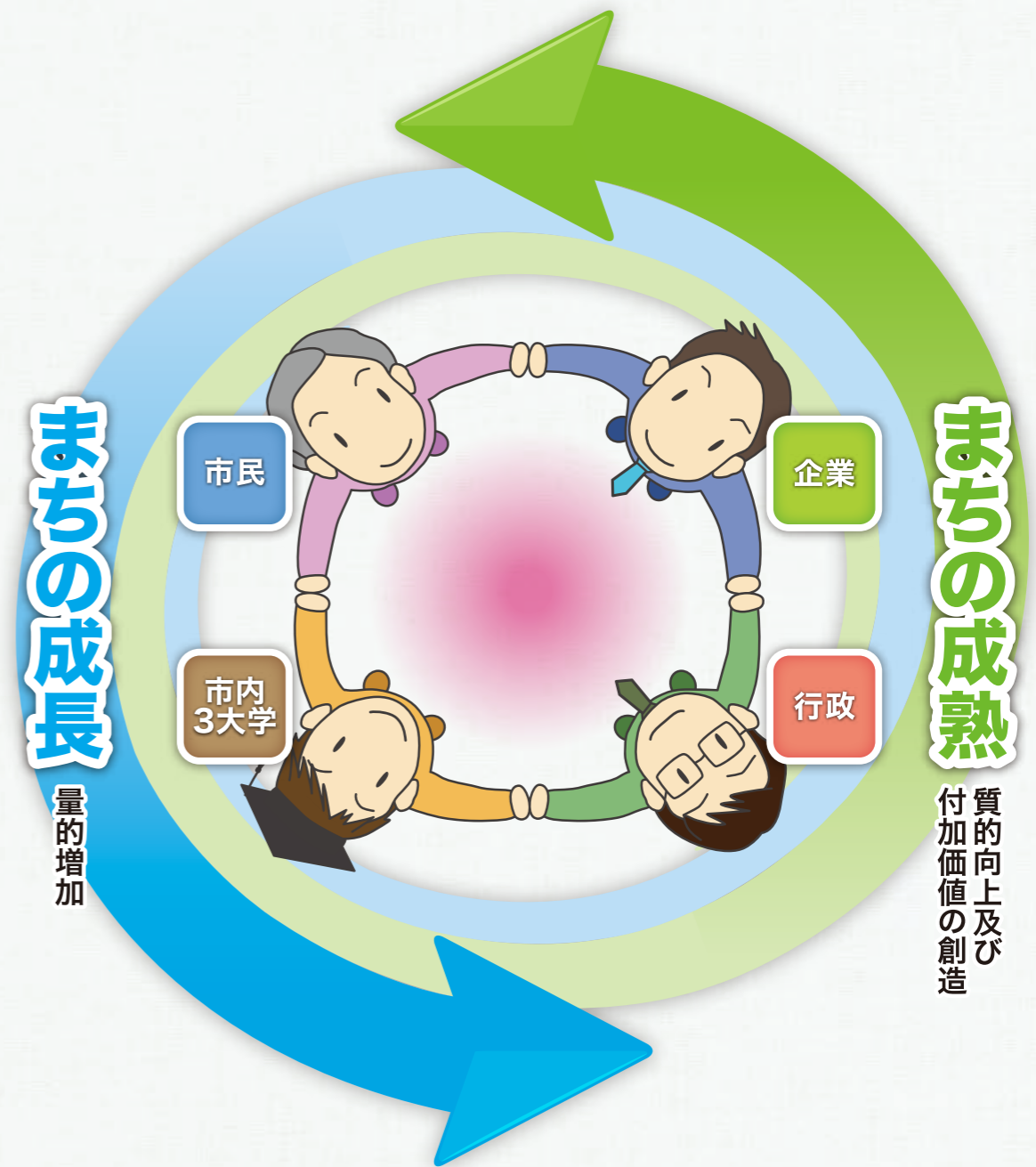


図5 連携によるまちの活性化のイメージ

まちづくりを構成している市民活動、企業活動、行政活動がそれぞれ連携するだけでなく、市内3大学を介した連携を行っていくことで、「まちの成長」が「まちの成熟」を促し、さらに「まちの成熟」が「まちの成長」を促すことにつながり、それぞれの活動がより活性化されることが期待されます。それらが渦を描くように大きくなっていくことで、まちはさらなる発展を遂げていきます。

※については、巻末の語句解説集を参照してください。

まちの成長



まちの成長とは、「量的増加」を目指すものです。まちづくりは、市民活動、企業活動、行政活動で構成されています。それぞれの活動については、その量を増加させることで、まちの成長を目指していきます。

市民活動において、市内で地域活動を行う市民や団体が増加することは、より自律*したまちへとつながっていきます。

企業活動において、市内で活動を行う企業及び起業が増加することや、市民活動などから新たな

な起業が生まれることは、活気あふれるまちへとつながっていきます。

行政活動において、他自治体などとの広域連携や市民活動及び企業活動に対する支援が拡大することは、暮らしやすいまちへとつながっていきます。

また、それぞれの活動において、市内3大学とも連携しながら、自律し、活気あふれ、暮らしやすいまちを目指すことで、持続可能な元気なまちづくりへとつながっていきます。



みんなの思い【ワークショップでの意見や提案】



- 無限に広がる 仲間たち 活気づく 楽しい街
- 宗像の企業は若者の就業先No.1
- 子育てボランティア団体が多い。
- もっとお店を増やしたい。
- 宗像市役所だけでなく、他の市役所と連携することで実現可能なこともある。

別冊「みんなの意見集」から抜粋

まちの成熟



まちの成熟とは、「質的向上」と「付加価値の創造」を目指すものです。

市民活動、企業活動、行政活動が相互に連携することで、新たに付加価値が創造され、まち全体の質の向上を目指していきます。

市民活動において、活動の質が向上することは地域活動が活発化し、自律したまちへとつながっていきます。

企業活動において、活動の質が向上することは地域産業や地域経済が活性化し、活気あふれるま

ちへとつながっていきます。

行政活動において、活動の質が向上することは質の高いサービスを引き続き提供することができ、暮らしやすいまちへとつながっていきます。

また、それぞれの活動において、市内3大学とも連携しながら、自律し、活気あふれ、暮らしやすいまちを目指すことで、持続可能な元気なまちづくりへとつながっていきます。



みんなの思い【ワークショップでの意見や提案】



- つながりを深めることで地域が活気づく。
- 市内3大学と連携し、特産物を加えることで付加価値をつけて販売する。
- 将来を担う子どもの利益を考え、質の高い教育を提供する。
- 一人ひとりが生産力や能力を身に付ける。
- これからのまちづくりは、事業の熟度をあげる必要がある。

別冊「みんなの意見集」から抜粋

本市には豊かな自然や歴史、文化、住環境、コミュニティ、市内3大学などの大切な資源が多くあります。この資源は、一度失うと取り戻すことは決して容易ではなく、まちは徐々にその魅力や活動する力を失い、将来においてまちの衰退にもつながり兼ねません。この大切な資源を失うことなく“次世代に引き継ぐ”という意識を持ちながら、次の4つの柱を将来像実現のために政策として展開していきます。

- 政策① 元気を育むまちづくり 政策② 賑わいのあるまちづくり
 政策③ 調和のとれたまちづくり 政策④ みんなで取り組むまちづくり

これらの政策を実現するにあたっては、基本方針に掲げている「まちの成長」と「まちの成熟」を踏まえた取組みを実施していくことが必要です。この「まちの成長」と「まちの成熟」への取組みとして、交流人口の増加、定住人口の増加、宗像の魅力（まちの魅力や人の魅力）の向上に取り組んでいきます。

元気

子育て・教育・健康福祉など



賑わい

産業振興・歴史文化・スポーツなど



調和

安全安心・環境・都市基盤など



みんな

コミュニティ・市民活動・行財政基盤など




図6 まちづくりの柱の関係性イメージ

総合計画に掲げる各施策を展開するうえで、常に意識しなければならない視点や積極的かつ戦略的に取り組むべき事項を示したものです。

1 節 協働の推進

①「協働」推進の必要性

本市は、古より交通や文化の要衝として、人と人とのふれあいを大切にしてきたまちであり、協働の精神が脈々と受け継がれてきました。近年では昭和50年代ごろから市民活動団体の組織化がみられ、都市の成長にあわせて活動の活発化と広がりを見せてきました。

コミュニティ施策に取り組んで18年が経過しました。その結果、各地区での住民主体による地域自治は、市内全域に浸透し、定着してきています。

加えて、近年大学や企業でも地域貢献に注力してお

り、学外や社外へ向けた取組みが進展しつつあります。このようななか、本市では、平成17年に策定した「第1次宗像市総合計画」、平成18年に制定した「市民参画・協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例」を基に、各施策に協働の理念を反映させ、「協働のまちづくり」を進めるとともに、他市町村に先駆けて市民活動団体やコミュニティ運営協議会などとの連携を図り、協働の推進に取り組んできました。今後も協働の理念を基本として、さらなる協働によるまちづくりを推進していきます。

②推進の取組み

市民ニーズの多様化などによって、今後は、行政サービスも拡大し、行政だけでは適切な対応ができない状況が増加していくことが想定されます。

そのため、市民、市民活動団体、コミュニティ運営協議会、大学、企業、行政が対等な関係で、互いの特性や能力を活かしたまちづくりを進めていく必要があります。第2次宗像市総合計画においても、

これまで築いてきた「協働のまちづくり」を引き継ぎ、進めていきます。

また、協働の推進については、「都市経営」の視点を市民等と共有しながら、「協働の推進」に大きな役割を果たしている市民活動団体やコミュニティ運営協議会などとの相互連携を拡充し、今まで以上に協働への取組みを強化していきます。

みんなの思い 【ワークショップでの意見や提案】



- 子ども、若者、シニア世代の人たちがつながり、生き生きとして住みやすい宗像市になるべき。
- 自律し、地縁を大切に市民が単身でも心豊かに暮らせるまちが素晴らしい。
- 地域の「絆」を再構築し、地域の密なつながりのあるまちを目指す。
- つながることができる場をつくる。
- 他人任せではなく自主的に日常生活にアプローチし、住民生活に役立つ取組みを行う。

別冊「みんなの意見集」から抜粋

2 節 都市ブランドの推進

①「都市ブランド」推進の必要性

我が国の総人口は平成22年をピークに減少を続け、平成25年には4人に1人が65歳以上となり、かつてない少子高齢化社会に突入しています。そのようななか、本市が選ばれる都市となり、持続可能な都市であり続けるためには、認知されるだけでなく、何らかの好ましいイメージ、ポジティ

ブなイメージを持ってもらう必要があります。本市は子育て世代の定住人口の増加につながるよう、「子育て世代に選ばれる都市イメージ」の確立を目指し、「子育て世代に選ばれる都市」として、ポジティブなイメージを持ってもらうために、強い都市ブランドをつくり、推進していきます。

②推進の取組み

強い都市ブランドをつくり、推進していくためには、価値や独自性を高めるまちづくりをしながら、市内外の人たちと共感をつくりだすことが重要です。そのため、居住環境の充実や子育て支援の拡充など、子育て世代に対して本市の価値を高める取組みを実施していきます。また、小中一貫教育を核とした学力の向上、産

学官民協働によるグローバル人材の育成、本市への郷土愛を育むなど、独自性の高い取組みを実施していきます。さらに、本市を知ってもらい、行ってみたい、住みたい、住み続けたいと思ってもらえるよう、共感をつくり出す情報発信の取組みを実施していきます。

みんなの思い【ワークショップでの意見や提案】



- 子どもの笑顔があふれ、子育てのしやすいまちになる。
- 恋多き世代が盛り上がるまちを目指す。
- 宗像の良さや魅力を市民が発信していく。
- 子どもに寄りながら地域のこと考え、ベッドタウンからリビングタウンへ変わっていく。
- お母さんが安心して仕事ができるような環境を整えることで、少子化が改善する。

別冊「みんなの意見集」から抜粋

メモ
